

令和4年度(2022年度)

1.17 防災未来賞

ほむかい甲子園

記録誌

明日の安全 みんなで築く考える

- 主 催● 兵庫県、(株)毎日新聞社、(公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構
(阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター)
- 後 援● 内閣府、総務省消防庁、文部科学省、国土交通省、兵庫県教育委員会、
神戸市、神戸市教育委員会、関西広域連合、
ひょうご安全の日推進県民会議
- 協 賛● 独立行政法人都市再生機構
- 事務局● 特定非営利活動法人さくらネット



兵庫県知事
齋藤 元彦

地球規模の気候変動などの影響により多発する風水害、世界各地で相次ぐ大地震。私たちはいま、かつてない災害リスクにさらされています。災害はいつ、どこで発生するかわかりません。だからこそ、過去の災害の経験や教訓を「伝え」、これからに「活かし」、次なる災害に「備える」ことが大切です。

阪神・淡路大震災を経験したここ兵庫県でも、28年という歳月を経て、震災のことを知らない方々が増え、その風化が懸念されています。

防災のバトンを、次の世代にしっかりと届けていくには、若い皆さんの活動が大きな力になります。今年度、18回目を迎えた1.17防災未来賞「ぼうさい甲子園」には、全国から123もの取り組みが寄せられました。

高齢者の安否確認や防災訓練をはじめ、住民参加のハザードマップ学習や防災体験プログラム、地域の未来を考える防災学習、オンラインでの出前授業など、どれも皆さんの熱意と創意工夫が感じられる取り組みばかりです。コロナ禍での活動には難しい面もあったでしょう。皆さんの真剣な思いを、とても心強く感じています。

安全で安心な社会づくりには、家庭や地域など、あらゆる生活の場面で、一人ひとりが防災・減災について考え、行動する「災害文化」がさらに広がっていくことが重要です。

「ぼうさい甲子園」に挑戦してくれた若い皆さんが、その推進役として、これからも活躍してくれることを期待してやみません。

主催者あいさつ



毎日新聞大阪本社編集局長
鯨岡 秀紀

本日は全国から大勢の方々に表彰式にご出席いただき、誠にありがとうございます。オンライン開催だった昨年とは違い、リアルの形で開催できますことを嬉しく思います。まずは、新型コロナウイルス感染症の流行がいまだに続く中、開催にご尽力いただいた皆様方に厚く御礼申し上げます。

今年も多数の応募をいただきました。私も選考に加わりましたが、新型コロナの影響で制約がある中、さまざまな工夫で乗り越える努力をされていることに感銘を受けました。さらに、コロナ禍も一つの災害とも言える状態だと思いますが、より対応力を高める機会にさせていただいていることにはたくましさも感じました。災害が発生すれば、事前の想定通りに進むとは限らず、先の見通しが立たないかもしれません。臨機応変の対応が重要になりますが、みなさんはコロナ禍の中、それを実践してきたとも言えると思います。

今年の応募作も意欲的な取り組みが多く、順位を決めるのに大変苦労しました。特に、上位の方々はほとんど差がないと感じましたが、やはりグランプリに選ばれた和歌山県立熊野高等学校Kumanoサポーターズリーダーの取り組みには特に感心しました。「地域に根ざし、地域に貢献する高校生リーダー」をモットーに取り組んでこられたということですが、まさにこの10年の継続的な取り組みが結実しつつあるということだと思います。

例えば、高齢者の安否確認の取り組みに火災報知機設置の確認や空き家確認を追加し、バージョンアップさせたことがいい例です。注目されているAEDシートの取り組みは言うまでもなく、身の回りにあるもので応急処置ができるように考える取り組みも評価できると思います。ジオパーク班ボランティアの取り組みも素晴らしいと思いました。自然災害をもたらす大地や海ですが、普段は数々の恵みをもたらしてくれています。大地の成り立ちだけでなく恩恵まで知ること、災害への向き合い方もさらに充実すると思うからです。いずれも、まさに地域に根ざした取り組みで、高く評価したいと思います。

他の応募作にも有意義な取り組みが多数含まれています。ぜひ、みなさんお互いに参考にして学びあい、備えの充実につなげていただければと思います。各地で災害への対応力が高まっていけば、主催者としてこれ以上の喜びはありません。みなさんのさらなる取り組みを期待して、ごあいさついたします。



公益財団法人ひょうご震災記念21世紀研究機構副理事長
(阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター長)

河田 恵昭

1.17防災未来賞「ぼうさい甲子園」を開催するにあたりまして、全国からたくさんの方にご参集いただきまして、ありがとうございます。

昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症に対する取り組みを対象活動に加えた今年度のぼうさい甲子園は、北海道から熊本県までの30都道府県から、123校・団体の応募がありました。この大変な状況の中で、昨年を上回る応募数があったということは、18回を重ねる本事業の趣旨が幅広く浸透してきているのではないかと考えています。

ところで、昨年の令和4年も3月には福島県沖地震、その後も東北豪雨や台風第15号など全国各地で災害があり、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の波が繰り返される中で、学校教育の現場では、防災教育の重要性を再認識されたのではないのでしょうか。このように、社会や環境が変わりゆく中で、その教育活動を進めるに当たっては、児童・生徒・学生諸君とその保護者はもとより、先生、学校関係者、地域の皆様もご苦労されていることと存じます。

そうした中、昨年、一昨年と行えなかった、その苦労を称える表彰式と発表会を合わせて、ここ兵庫県で、こうして行えることを大変うれしく思っています。

今後も社会情勢は常に変化していくことになると思いますが、防災教育の重要性は変わりません。その時代、時代に合わせた取り組み方があると思います。そして、このぼうさい甲子園も同じように少しずつ時代に合わせて変化をしながら、さらに20年、30年と継続していきたいと考えています。今日の表彰式や発表会を通じて、皆さま方に、この「ぼうさい甲子園」という活動を十分、ご理解いただきまして、この活動がさらに広がって欲しいという私の願いをお伝えしまして、私の開会の挨拶とさせていただきます。

講 評

審査にあたりましては、「地域性」や「独創性」、「自主性」、「継続性」といった4つの観点を選考基準に、選考委員会で審査し、決定しました。応募があった防災教育や防災活動の取り組みはどれも素晴らしいものばかりでしたが、これらの中で特に優れた57団体を表彰することとなりました。

「グランプリ」には、「高校生の部」の「和歌山県立熊野高等学校Kumanoサポーターズリーダー」です。この学校では、平成23年「紀伊半島大水害」で、当時3年生だった仲間が亡くなりました。この災害の教訓を生かそうと防災学習を始めて、地域との合同防災訓練、災害時要援護者との絆づくり、過疎化などの地域課題にも向き合うなど、多数の活動を継続しています。今回で10回目の応募となり、見事グランプリに輝きました。

ぼうさい大賞「小学生の部」は、宮城県「仙台市立七郷小学校」です。震災後、学校生活を取り戻し、児童を元気にさせる復興学習からスタートし、12年間掛けて、深化・改善させながら現在の防災教育カリキュラムができあがったそうです。学年ごとにテーマを決めた総合的・継続的な防災教育・活動を実施されています。今回2回目の応募でぼうさい大賞に選ばれました。

ぼうさい大賞「中学生の部」は、北海道「むかわ町立鶴川中学校」です。2019年に発生した北海道胆振東部地震の経験を踏まえ、防災集会、ハザードマップ学習、予告なし避難訓練などを行うとともに、子供たちが自分事として震災の記憶をつないでいく取組が評価されました。このぼうさい甲子園には、初めての応募で見事、ぼうさい大賞に選ばれました。

ぼうさい大賞「大学生の部」は、「龍谷大学政策学部 石原凌河研究室」です。この研究室は、南海トラフ地震などで大きな被害が懸念されている徳島県阿南市内の小学校を対象に、様々なテーマ・手法により、児童が興味を持つユーモアのある防災教育出前授業などを実施しています。昨年度のURレジリエンス賞受賞に引き続き、今回は「ぼうさい大賞」受賞となりました。

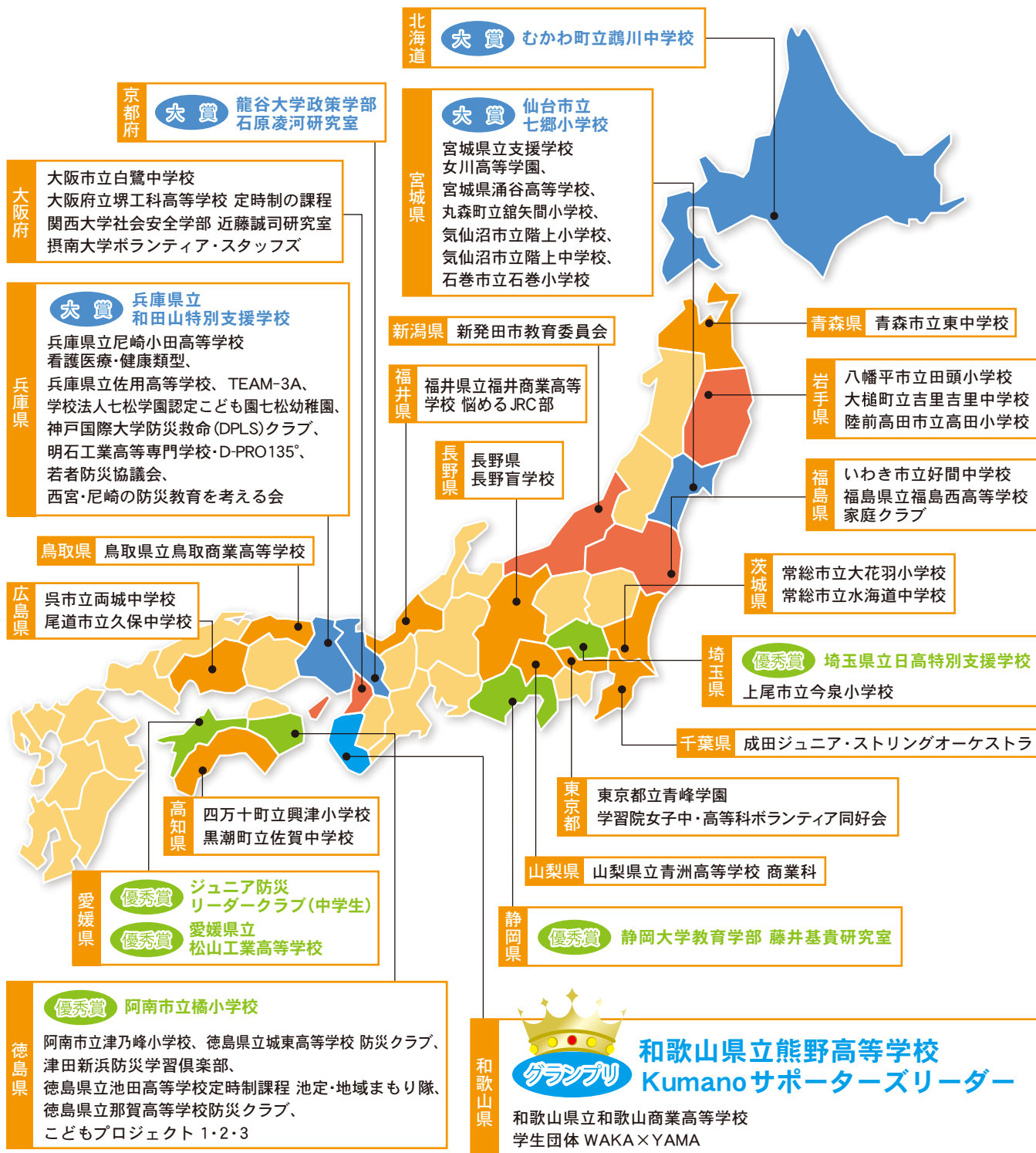
ぼうさい大賞「特別支援学校・団体の部」は、「兵庫県立和田山特別支援学校」です。地域に働きかける避難訓練への見直し、教科横断型の授業による防災教育の推進、保護者や地域と連携した防災体験プログラムなど、子どもたちが自らの命を守れるようにするだけでなく、子どもたちを支える大人や地域の学びや変容もねらい取り組みを進めていることが評価され、「ぼうさい大賞」受賞となりました。

このほか、厳しい環境の中で創意工夫をされた各校に、優秀賞や奨励賞を始め、URレジリエンス賞、はばタン賞、だいじょうぶ賞、フロンティア賞、継続こそ力賞、そして、しなやかwithコロナ賞の各特別賞を授与させていただきました。

受賞校・団体のご紹介

今年度は、57校・団体が受賞いたしました。

来年度も、更にレベルアップした取り組みのご応募、お待ちしております。



賞	部 門	都道府県	学校・団体名	ページ
グランプリ	高校生部門	和歌山県	和歌山県立熊野高等学校 Kumano サポーターズリーダー	P.6
ぼうさい大賞	小学生部門	宮城県	仙台市立七郷小学校	P.6
	中学生部門	北海道	むかわ町立鶴川中学校	P.7
	大学生部門	京都府	龍谷大学政策学部 石原凌河研究室	P.8
	特別支援学校・団体部門	兵庫県	兵庫県立和田山特別支援学校	P.8
優秀賞	小学生部門	徳島県	阿南市立橋小学校	P.8
	中学生部門	愛媛県	ジュニア防災リーダークラブ(中学生)	P.9
	高校生部門	愛媛県	愛媛県立松山工業高等学校	P.10
	大学生部門	静岡県	静岡大学教育学部 藤井基貴研究室	P.10
	特別支援学校・団体部門	埼玉県	埼玉県立日高特別支援学校	P.10
奨励賞	小学生部門	岩手県	八幡平市立田頭小学校	P.11
	小学生部門	徳島県	阿南市立津乃峰小学校	
	中学生部門	福島県	いわき市立好間中学校	P.12
	中学生部門	大阪府	大阪市立白鷺中学校	
	高校生部門	大阪府	大阪府立堺工科高等学校 定時制の課程	
	高校生部門	兵庫県	兵庫県立尼崎小田高等学校 看護医療・健康類型	
	大学生部門	大阪府	関西大学社会安全学部 近藤誠司研究室	P.13
	特別支援学校・団体部門	宮城県	宮城県立支援学校女川高等学園	

令和4年度 特別賞	説 明	学校・団体名
URLゼリエンス賞	被害を減らすと同時に、復旧までの時間を短くすることにより、社会に及ぼす影響を減らす「レジリエンス(縮災)」という考え方に繋がる取り組みに贈られます	新発田市教育委員会(新潟県)、四万十町立興津小学校(高知県)、大槌町立吉里吉里中学校(岩手県)、黒潮町立佐賀中学校(高知県)、宮城県涌谷高等学校、和歌山県立和歌山商業高等学校、徳島県立城東高等学校 防災クラブ、摂南大学ボランティア・スタッフズ(大阪府)、東京都立青峰学園、長野県長野盲学校
はばタン賞	阪神・淡路大震災以降に被災した地域にエールを送るため、これら地域を対象に被災の経験と教訓から生まれた優れた活動に贈られます	丸森町立館矢間小学校(宮城県)、気仙沼市立階上小学校(宮城県)、常総市立大花羽小学校(茨城県)、気仙沼市立階上中学校(宮城県)、呉市立両城中学校(広島県)、兵庫県立佐用高等学校
だいじょうぶ賞	安心・安全なまちづくりを目指す「だいじょうぶ」キャンペーン実行委員会にちなんだ賞 防犯や街の身近な安全、安心・安全なまちづくりを目指す優れた活動に贈られます	石巻市立石巻小学校(宮城県)、津田新浜防災学習倶楽部(徳島県)、徳島県立池田高等学校定時制課程 池定・地域まもり隊、TEAM-3A(兵庫県)
今年度「テーマ賞」	防災教育活動の広がりを促進するための賞 過去に受賞がなかった地域・分野での先導的な取組または初応募の優れた取り組みに贈られる賞です	陸前高田市立高田小学校(岩手県)、尾道市立久保中学校(広島県)、福島県立福島西高等学校 家庭クラブ、山梨県立青洲高等学校 商業科、学生団体 WAKA×YAMA(和歌山県)、学校法人七松学園認定こども園 七松幼稚園(兵庫県)
	継続こそ力賞	青森市立東中学校、徳島県立那賀高等学校 防災クラブ、神戸国際大学 防災救命(DPLS)クラブ(兵庫県)、こどもプロジェクト1・2・3(徳島県)、成田ジュニア・ストリングオーケストラ(千葉県)
	しなやかwithコロナ賞	上尾市立今泉小学校(埼玉県)、常総市立水海道中学校(茨城県)、学習院女子中・高等科 ボランティア同好会(東京都)、福井県立福井商業高等学校 悩める JRC 部、鳥取県立鳥取商業高等学校、明石工業高等専門学校・D-PRO135°(兵庫県)、若者防災協議会(兵庫県)、西宮・尼崎の防災教育を考える会(兵庫県)



グランプリ



和歌山県

和歌山県立熊野高等学校Kumanoサポーターズリーダー

『地域に根ざし、地域に貢献する高校生リーダー』をモットーに10年前から防災学習をテーマに活動を継続している。平成23年台風12号による「紀伊半島大水害」では、死者56名・行方不明者5名という甚大な被害に合い、当時3年生だった仲間が裏山の深層崩壊により、亡くなった。毎年9月3日には全校生徒で黙とうを行っている。仲間の死を無駄にしないために、この災害の教訓を生かそうと活動を始め、地域の高齢者・障がい者など災害時要援護者となりうる人々と普段から積極的に触れ合い絆作りを行っている。また人口減少や過疎化・空き家問題など地域の課題解決策を見出すため、行政や社会福祉協議会・消防署と連携し、情報共有を行っている。毎年行われる上富田町との合同防災訓練では、全校生徒が主体的に取り組んでいる。



ぼうさい大賞 小学生部門

宮城県

仙台市立七郷小学校

東日本大震災後、学校生活を取り戻し、児童を元気にさせる復興学習からスタートした本校の研究は、12年間掛けて、深化・改善させながら現在の防災教育カリキュラムができあがった。在籍する6年間に掛けて、本校が目指している「自分の将来や社会に夢や希望を持ち、災害に負けないでたくましく生きようとする子ども」に近付きつつある。入学時は、震災についてほとんどの児童が知らない。家庭や地域での聞き取り活動から震災について知り、もしも災害が起こったらどう行動すればよいか、被害を軽減するためにあらかじめできることはないかと考える学習を6年間掛けて実施している。令和3年10月からの学習では、震災遺構を見学する、津波体験者から話を聞く、復興への思いを語り合う、自分たちの学びを発信する活動によって学びを深めることができた。集大成として、被災地の魅力を発信する「未来のまちづくり」模型作り活動を今年度末に予定している。



ぼうさい大賞 中学生部門

北海道

むかわ町立鵜川中学校

本校では北海道胆振東部地震が発生した2019年9月6日「『むかわの記憶』～守ろう わたしの命 あなたの命 つなげよう9.6 あの日のわたしと未来のわたしたち～」をスローガンに防災教育を進めてきた。そこで ①「風化」させてはいけない震災の記憶の学校と地域での共有 ②「いつも」が「もしも」につながる防災教育 ③「参加」から「参画」をめざした防災教育に取り組んできた。震災の記憶を共有するために、防災集会、防災講話、住民参加のハザードマップ学習、DIG学習、HUG学習、そして防災リンピック等を行った。また、「いつも」の授業に防災の視点を取り入れた授業で「もしも」に備えた教育カリキュラムを構築した。そして、何より子どもたちが被災経験に「自分ごと」として向き合い、震災の記憶をつないでいく主体となるために、東日本大震災で当時同じ中学生だった東北の被災者の方からお話を聴いたり、東北を修学旅行で訪れたりした。



ぼうさい大賞 大学生部門

京都府

龍谷大学政策学部 石原凌河研究室

龍谷大学政策学部石原凌河研究室（地域レジリエンス研究室）では、＜繋ぐ・深まる防災教育＞をコンセプトに、全国各地の様々な地域での防災教育に関する理論的かつ実践的な取り組みを積極的に展開している。

徳島県阿南市では南海トラフ地震や頻発する風水害・土砂災害の被害が懸念されている。その中で阿南市をフィールドで私たち大学生による防災教育出前授業を実施することで、阿南市の児童及び家族や地域の人々など多様な人々を防災教育で＜繋ぐ＞ことで地域の防災力の向上を目指す。そして、大学生が一方向的に防災の知識を押し付けるのではなく、児童が興味を持つ「タイムカプセル」や児童が運営役や避難者誘導役になりきり、主体的に避難所運営を実施する「リアル避難所運営ゲーム」などを用いたユーモアのある防災教育出前授業を展開することで児童に防災教育を楽しんでもらいながら知識が＜深まる＞ことが私たちの授業の狙いである。



ぼうさい大賞 特別支援学校・団体部門

兵庫県

兵庫県立和田山特別支援学校

コロナ前から積み上げてきた防災のノウハウやしくみを活用しながら、コロナに対応してきた。本校独自の「新型コロナウイルス感染症ガイドライン」を策定し、対策を続けている。基本的な感染症対策と時や場所を分散するなどの工夫を行い、ウィズ・コロナを意識した教育活動を行っている。コロナを契機に防災教育や防災体制についても見直しを行った。避難訓練等を見直し、地域に働きかける「はるかひまわりプロジェクト」の実施、教科等横断的な「授業」を中心とした防災教育の推進、保護者や地域と連携した防災体験プログラムの実施、福祉避難所開設について保護者による市町への働きかけ等に取り組んだ。本校の防災教育は子どもたちが自らの命を守れるようにするだけでなく、子どもたちを支える大人や地域の学びや変容もねらい取り組みを進めている。教育活動をする中で、カリキュラム・マネジメントや災害後の心のケア等、視点の広がりを持つことができた。



優 秀 賞

徳島県

阿南市立橘小学校

町探検での発見・疑問から深まった防災学習は3年目を迎え、地域と共に「誰一人取り残さない」「みんなで助かる町に」を合い言葉に、この町に起こる災害を自分事として捉え、行動する力を育成している。高台にある本校は災害時避難所となるため、発達段階に応じた避難所運営の学習をし、平時の備えとして、学校のトイレに災害時の使い方の常設や、災害時のタイムラインづくり等、事前準備の充実を図っている。今年度は、災害時に避難所となる体育館で、児童が考案した要配慮者が過ごしやすい避難所運営をもとに、受付・誘導といった運営側の「避難所開設体験」をした。「橘町のどこにいても誰もが助かる」ために、児童・保護者と地域住民が交流した避難所巡りウォークラリーを実施し、いざという時の顔なじみチームをつくった。町の高齢化が進む中、児童が未来へ希望を持ち、自主防災会や地域コミュニティとの絆を紡ぐインクルーシブ防災を展開していく。



優 秀 賞

愛媛県

ジュニア防災リーダークラブ（中学生）

松山は豪雨に対して脆弱で、平成30年7月豪雨災害でも甚大な被害が発生した。犠牲者を減らすには早期避難が必須であるが、市民の避難率はかなり低い。そこで、中学生のジュニア防災リーダーが中心となって、早期避難の重要性を松山市長に提案し、マイ・タイムラインシートの市内全戸配布が実現した。この出来事をきっかけに「松山逃げ遅れゼロプロジェクト」が始動し、令和4年度から全市立中学校でマイ・タイムラインの授業が実施されている。合わせて、家族に避難の重要性をはがきで伝える「命のはがきプロジェクト」も進めており、命の大切さを家族で考えるきっかけとなっている。4,000枚のはがきは松山中央ライオンズクラブから贈呈された。また愛媛県中予地区郵便局長会の協力で、命のはがきを郵便局に掲示し広く防災啓発を行う。ジュニア防災リーダークラブの中学生の行動が、様々な組織の連携とマイ・タイムラインの普及につながっている。



愛媛県

愛媛県立松山工業高等学校

チームSOFは、西日本豪雨後に結成され「災害に強く、住み続けることができる地域づくり」を目指して、様々な人を巻き込みながら活動している。

主な活動は、小中学生等を対象とした「Game de マイ・タイムライン」出前授業、小中高大学生等を対象としたオンライン防災交流（海外含む）、企業や市の職員、自主防災組織等を対象とした高校生防災士による防災ワークショップ、各種防災イベントへの参加、SOF新聞の発行、工業高校の特色を生かした「防災グッズ」の製作等となっている。

Game de マイ・タイムラインは、メンバーが開発したカードゲームを行いながらマイ・タイムラインを作成する教材で、小中学生の出前授業で活用し好評を得ている。また、各学科の特色を生かした防災グッズの製作は、課題研究を活用し、様々な防災グッズの製作に取り組んでいる。このグッズは、各種イベントで展示され、防災啓発活動に貢献している。



優秀賞

静岡県

静岡大学教育学部 藤井基貴研究室

静岡大学教育学部藤井基貴研究室は「考える防災」「脅さない防災」「伝える防災」を柱として、これまでに開発した防災紙芝居などの改善・普及を図るとともに、動画教材の配信も進めている。2022年度は静岡県内で「BOSAIユースアンバサダープログラム」の取組が事業化され、8校の高校で導入が図られるとともに、プログラム専用のガイドブックを作成・配布した。2021年9月からこれまでに1,500名を超える高校生への指導支援を行っており、大学生から高校生へ、高校からさらに地域へと防災の輪が広がっていることを実感している。また、海外への展開として、教材を英語及びスペイン語に続き、インドネシア語とトルコ語への翻訳を行い、エクアドル、インドネシア、トルコでの教材普及を進めている。加えて新たに「防災×IT」をテーマに掲げ、地元企業と共同で防災アプリ「クロスゼロ」を開発し、2022年秋に公開・配信する。



埼玉県

埼玉県立日高特別支援学校

今年度も防災委員会を中心に『かわせみ防災クエスト2022』として内容を改訂し、企業の協力を得てQRコードを載せた地図を使って記録と防災謎解きができる、新たな防災学習のツールとなる冊子を制作した。全校のみならず県内外の特別支援学校や日高市の防災イベント等でミッションと謎解きに挑戦してもらい、交流会等で振り返りを行う予定である。また、防災絵本『命を守ろうね かわせみ防災たい!』を制作し、アプリを使えば全国で学習に活用できる、特別支援学校発の防災教材として発信する。



他にも「はるかのひまわり」をきっかけに鶴ヶ島市のひまわり迷路に依頼され、ポスター制作や苗を育てて寄贈し、新たな地域とのネットワークを構築することができた。防災委員会は絵や写真、制作を中心とする活動やゾウの日の放送など、それぞれの得意なことで活躍できる場があり、自分たちの活動が多くの方に評価され、達成感を味わうことができた。

奨励賞

岩手県

八幡平市立田頭小学校

本校の学区は、八幡平市の南側に位置し、南西に岩手山、西に八幡平がそびえ、自然豊かな地域である。

本校の防災教育は、「授業」と「避難訓練」の二本柱で取り組んでいる。

一つ目の授業では、主体的に学び行動できる態度を身に付ける児童を育成するために、「自分事」「命を守る」「他者に伝える」をキーワードに防災教育の授業づくりに取り組んでいる。身近な岩手山、八幡平を題材にし、自分事として考えることのできる課題設定、友だちと協働的に学びながら解決する学習過程、自助・共助の視点での振り返りに取り組んでいる。二つ目の避難訓練では、児童・教職員共に命を守ること、命を守るための動き等、目的意識をもって臨んでいる。また、今年度は、岩手山噴火を想定した避難訓練、保護者への引き渡し訓練など、学校・家庭が一体となった取組を展開している。以上の取組から、防災意識がどんどん高まってきている。

徳島県

阿南市立津乃峰小学校

本校は、「持続可能で、安定した日常としての防災教育」をテーマに、防災教育を実施している。日常の学校教育活動全体に防災教育を組み込むことで、児童にとって防災は特別なものではなく、非常事態にも冷静に対処できる姿勢が育ってきている。

ところがここ近年、新型コロナウイルス感染症の影響で、防災活動を縮小せざるを得なくなった。コロナ禍の中でどのように防災意識を高めていくのか、創意工夫が問われている。そこで、オンラインによる集会や講演・交流をいれたハイブリットの防災教育を行ってきた。オンラインでは、いままで会うことの難しかった遠方の方や専門家との交流も可能となり、交流の幅が広がった。感染症対策を講じながらの防災教育は、私たちが命の尊さを再確認するきっかけとなった。「災害は待たなし、今できる最善を尽くす」、ピンチをチャンスに変え、津乃峰小学校は今後も持続可能な防災教育を推進していく。

福島県

いわき市立好間中学校

本校の学区は令和元年台風19号で甚大な被害を受けた。そこで、市危機管理課の支援事業と連携し、本校をモデル校として総合的な学習の時間において防災教育を実施した。1学年「防災ハンドブックの作成（自助）」、2学年「地域防災マップづくり（公助）」、3学年「避難所開設運営訓練（共助）」をテーマに防災教育を実施した。実際に町歩きをしたりや防災マップの確認作業をしたりする活動を通して、自分の町を詳しく調べることができ、防災・減災に対しての意識を向上させることができた。また、地域が災害リスクが高いことを理解することで、自分の身を守るための知識を得ただけではなく、「学習したことを地域に役立てたい」「自分を人のために役立てたい」といった考えを持つ生徒を多く見ることができた。このように、防災教育を体験した中学生が地域のコミュニティの一端を担い地域に貢献しようとする意識を高められたことは大きな成果であった。

奨励賞

大阪府

大阪市立白鷺中学校

大阪市立白鷺中学校は「思いやり」と「そうぞう力」を持ってつながりを大切にした防災教育を実践しており、みんなの安心・安全を守る全校生徒・保護者・地域・教職員で取り組むプラス防災を提案し、様々な活動に防災の視点をプラスしている。「白鷺防災デー」は全校生徒、教職員、保護者、地域、関係諸機関が協働して防災活動に取り組む自助・共助・公助を学ぶ「場」として定着している。生徒自主防災チームのメンバーを中心に防災・減災の啓発活動を積極的に行ない、メンバーの生徒は活動を通じてやりがいを感じ自己肯定感の高まりに結びついている。ICTを活用した啓発活動は情報活用能力・表現力の向上につながっている。オンラインを活用した被災地の方による防災講話、全国の中学生・高校生との交流は生徒の「防災を自分事」とする意識向上につながっている。今後も防災教育において「人と人をつなぐツール」としてICTを積極的に活用していく。

大阪府

大阪府立堺工科高等学校 定時制の課程

私たちは「堺学」という授業で「包丁」と「線香」を作っている。

東日本大震災の被害により、家庭科で使用する「包丁」が流されて困っているという話を聞いて以来「包丁」と「線香」（鎮魂の願いを込めて）を寄贈し続けている。

被災地支援活動を通して、「防災」について考えた時、有事に備えることはもちろん大切だが、並行して自然災害を減らすことも重要だと気づいた。

そこで、自然災害が多発している昨今、地球温暖化防止のために「ぼうさい」のことを考え、「バイオディーゼル発電機」と「浄水（造水）装置」、「プラスチックゴミ油化装置」を製作した。

また、コロナ禍において、「ものづくり」の技術を活かして社会を元気にする「防災プロジェクト」を立ち上げ、様々な「防災キャンペーン」を企画して、「防災啓発グッズ」を製作した。

活動の結果、地域の方と「防災」について話す機会も増え、地域全体の「ぼうさい」に対する意識が高まった。

兵庫県

兵庫県立尼崎小田高等学校 看護医療・健康類型

平素から、地域住民同士の繋がりを持ち、顔の見える関係づくりを構築し、災害時にはお互いが助け合える関係になる必要がある。平素から、地域コミュニティづくりの一翼を私たち高校生が担う！」というスローガンのもと、防災・減災の活動を行って7年目である。初期は、GIS（地理的情報システム）を使い、地域住民一人一人にカスタマイズされた防災ハザードマップの作成、東北や熊本への被災地ボランティア、自助・共助の大切さの学習から、最近では災害時要配慮者の支援、小学生への語り継ぎ、減災フェスティバルの実施と活動の幅を広げてきた。また、防災・減災だけではなく、高齢者・子ども支援に広げ、看護医療・健康類型だけではなく、全校生に輪が広がっている。その結果、地域住民、行政の信頼を得られ、地域住民に頼られる存在となっている。

奨励賞

大阪府

関西大学社会安全学部 近藤誠司研究室

近藤研究室では、様々なローカルメディアを活用して全国各地で防災活動を支援している。たとえば、校内放送、学校だより、地域のかかわり版、ケーブルテレビ、コミュニティFM、TwitterやYouTubeなどである。その多くが長年にわたって知恵や工夫を蓄積してきたことから、コロナ禍にあっても閉塞することなくチャレンジを続けることができています。

たとえば、神戸市真陽小学校の校内防災放送プロジェクトは、毎週月曜日の昼休みに、放送委員児童と大学生が防災のコンテンツを全校児童に届けるというもの。取り組みを開始して今年で9年目になる。9月にはシリーズ通算250回目の放送を実施することができた。この達成感が次のステップの「力」となる。

コロナ禍にあって、新たに始めたプロジェクトもある。大阪府吹田市では市営住宅にお住まいの高齢世帯の防災を支援する活動をスタート。この試みを全国に発展させていこうと考えている。

宮城県

宮城県立支援学校女川高等学園

今年度、本校はコミュニティ・スクール推進指定校となり、より防災教育に“地域”という視点が求められる。コロナ禍に入り停滞していた地域連携をイメージし始めた矢先の5月、県はこれまでの津波浸水想定の見直しを発表した。復興が進み安全とされた場所が浸水区域に変わる。新たなリスクに着目しながら、今年も生徒が企画する総合防災訓練が開催された。訓練の中心となる3年生は、感染症による一斉休校の影響で入学が遅れた学年。当時、彼らは縦割りでの防災訓練に参加できず、先輩と共に学ぶ機会を一度失った。最上級生になった彼らが見出した訓練テーマは「継承」。そして訓練を通し、取り組む意義の大切さを示してくれた。震災後11年を迎えた女川町にある学校として、町の被災経験を理解し、新たな想定を含む様々なリスクを地域と共有し、どう地域に貢献していくか。被災地で防災教育に取り組む本校は、「継承」というテーマの新たな局面を迎えている。

防災教育の力と知恵の広がりを応援するとともに、新型コロナウイルス感染症を乗り越えていく取り組みを紹介するため、「ぼうさい甲子園」の特設サイトを開設しています。

受賞校・団体の紹介動画や取り組み状況など、本誌では伝えきれない内容を掲載しています。是非ご覧ください。



<http://bousai-koushien.net/>

表彰式・発表会 概要



毎日新聞社提供

趣 旨

阪神・淡路大震災の経験を通して学んだ自然の驚異や生命の尊さ、ともに生きることの大切さを考える『ぼうさい教育』を推進し、未来に向け安全で安心な社会をつくる一助とします。児童・生徒・学生が学校や地域において主体的に取り組む、『ぼうさい教育』に関する先進的な活動を顕彰します。

なお、今回も昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染症対策に苦慮されている全国の学校・団体の状況を考慮した「特別企画」として実施しています。

プログラム

令和5年1月8日(日) 兵庫県公館

13:00 開 会
開会のことば
主催者あいさつ

- 河田 恵昭 (公財) ひょうご震災記念 21 世紀研究機構
阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター長
- 服部 洋平 兵庫県副知事
- 鯨岡 秀紀 毎日新聞大阪本社編集局長

13:15 表彰式

- 1.17 防災未来賞「ぼうさい甲子園」表彰
(グランプリ・ぼうさい大賞、優秀賞、奨励賞、UR レジリエンス賞、はばタン賞、だいじょうぶ賞、フロンティア賞、継続こそ力賞、しなやか with コロナ賞)
- 防災力強化県民運動ポスターコンクール表彰
(ひょうご安全の日推進県民会議会長賞、人と防災未来センター長賞)

14:20 発表会

- 1.17 防災未来賞「ぼうさい甲子園」受賞団体による活動発表
司会：兵庫県立尼崎小田高等学校 放送部

15:15 講 評

- 河田 恵昭 (公財) ひょうご震災記念 21 世紀研究機構
阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター長

15:20 閉 会

表彰式の様子

表彰式は、グランプリ・大賞表彰からはじまり、来場者に表彰状や副賞が授与されました。

グランプリ・大賞表彰



グランプリ・大賞表彰の様子



服部副知事から表彰状を授与されました

UR レジリエンス賞表彰



佐水副社長から表彰状を授与されました

フロンティア・継続こそ力・
しなやか with コロナ賞表彰



河田センター長から表彰状を授与されました

優秀賞表彰



河田センター長から表彰状を授与されました

奨励賞表彰



鯨岡編集局長から表彰状を授与されました

はばタン・だいじょうぶ賞表彰



表彰の様子



服部副知事から表彰状とはばタンぬいぐるみが授与されました

発表会の様子

発表会は、グランプリおよび大賞を受賞した5校が約8分ずつ発表を行いました。
発表会の進行は、尼崎小田高校放送部が行いました。



〈グランプリ〉
和歌山県立熊野高等学校
kumano サポートズリーダー

テーマ「地域を知り、共有すれば、心は動く」



司会



尼崎小田高校 放送部の
初田優空さん、
大久保銀さんが
司会を務めました。



〈特別支援学校・団体部門 ぼうさい大賞〉
兵庫県立和田山特別支援学校



テーマ
「コロナ渦における防災教育の充実」



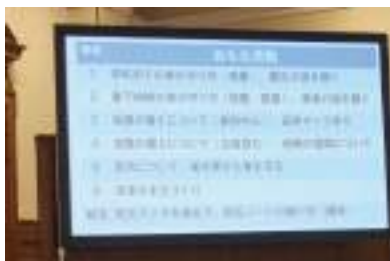
〈小学生部門 ぼうさい大賞〉
仙台市立七郷小学校



〈中学生部門 ぼうさい大賞〉
むかわ町立鶴川中学校



テーマ
「震災の記憶を地域の住民と
ともに刻む防災学習」



テーマ
「夢や希望を育む防災教育の取組」



〈大学生部門 ぼうさい大賞〉
龍谷大学政策学部 石原凌河研究室



テーマ
「つなぐ・深まる防災教育」

会場展示の様子

会場には、受賞校・団体が作成した新聞やポスターが掲示されました。
各地での防災学習の成果が一堂に集まり、充実した見ごたえのある空間となりました。
また、受賞校・団体が作成した資料を参加者に配布しました。

掲示物



配布資料



今年度は受賞 57 校・団体の中から、31 校・団体のみなさんが、表彰式・発表会にご参加くださいました。ありがとうございました。

【グランプリ・大賞】

- 和歌山県立熊野高等学校 kumano サポートズリーダー ●仙台市立七郷小学校 (宮城県) ●むかわ町立鶴川中学校 (北海道)
- 龍谷大学政策学部 石原凌河研修室 (京都府) ●兵庫県立和田山特別支援学校

【優秀賞】

- 阿南市立橘小学校 (徳島県) ●ジュニア防災リーダークラブ (中学生) (愛媛県) ●愛媛県立松山工業高等学校
- 静岡大学教育学部 藤井基貴研究室 (静岡県) ●埼玉県立日高特別支援学校

【奨励賞】

- 八幡平市立田頭小学校 (岩手県) ●大阪市立白鷺中学校 ●大阪府立堺工科高等学校定時制の課程
- 宮城県立支援学校女川高等学園

【UR レジリエンス賞】

- 大槌町立吉里吉里中学校 (岩手県) ●和歌山県立和歌山商業高等学校 ●徳島県立城東高等学校防災クラブ
- 摂南大学ボランティア・スタッフズ (大阪府)

【はばタン賞】

- 常総市立大花羽小学校 (茨城県) ●呉市立両城中学校校 (広島県) ●兵庫県立佐用高等学校

【だいじょうぶ賞】

- 津田新浜防災学習倶楽部 (徳島県) ●TEAM-3A (兵庫県)

【フロンティア賞】

- 学生団体 WAKA×YAMA (和歌山県) ●学校法人七松学園認定こども園 七松幼稚園 (兵庫県)

【継続こそ力賞】

- 青森市立東中学校 ●こどもプロジェクト1・2・3 (徳島県)

【しなやか with コロナ賞】

- 学習院女子中・高等科 ボランティア同好会 (東京都) ●明石工業高等専門学校・D-PRO135° (兵庫県) ●若者防災協議会 (兵庫県)
- 西宮・尼崎の防災教育を考える会 (兵庫県)

地域の絆 日ごろから

河田恵昭・選考委員長
(人と防災未来センター長)

和歌山県立熊野高校
Kumanoサポーターズ
グループは、紀伊半島
豪雨で被害を受けた
地域を支援する活動
から災害の教訓を生
かすという防災教育を
始め、地域の合同防災
訓練や災害時要援護
者の絆づくりなど、
多岐の活動を通して
防災意識を高め、
防災力向上に貢献
しています。10回目の表
彰式に、熊野高校



＝熊野高校提供

光った 創意工夫

「防災教育」をテーマに、熊野高校は、地域の防災力向上に貢献しています。10回目の表彰式に、熊野高校

ラフ 地震被害が懸念
される熊野町の小学
生大規模な地震に
対応するための防災
訓練や災害時要援
護者の絆づくりなど、
多岐の活動を通して
防災意識を高め、
防災力向上に貢献
しています。10回目
の表彰式に、熊野
高校



「防災教育」をテーマに、熊野高校は、地域の防災力向上に貢献しています。10回目の表彰式に、熊野高校

高齢者に寄り添い

和歌山県立熊野高校
Kumanoサポーターズリーダー

グランプリ

優秀賞

次世代担い手育成

静岡大学教育学部基盤教育研究
室は、熊野高校の防災教育を
評価し、次世代の担い手育成
に貢献しています。熊野高校
の防災教育は、地域の防災力
向上に貢献しています。10回
目の表彰式に、熊野高校



地域の高齢者を訪問する部員(左)＝Kumanoサポーターズリーダー提供

熊野高校は、地域の防災力向上に貢献しています。10回目の表彰式に、熊野高校

和歌山県立熊野高校のKumanoサポーターズリーダーは、生徒が主体的に活動し、地域の防災力向上に貢献しています。10回目の表彰式に、熊野高校



表彰後に活動を報告する和歌山県立熊野高校Kumanoサポーターズリーダーの生徒＝熊野高校提供

ぼうさい甲子園 57校・団体を表彰

優れた防災教育を表彰する「ぼうさい甲子園」は、17年度から、熊野高校の防災教育を評価し、次世代の担い手育成に貢献しています。熊野高校の防災教育は、地域の防災力向上に貢献しています。10回目の表彰式に、熊野高校

愛媛県立松山工業高校 避難へ意識高める

優秀賞

愛媛県立松山工業高校は、西日本豪雨(2018年)をきっかけに「みんなが守る地域の未来プロジェクト」と題して、18年から取り組んできた。豪雨の際の避難率の低下を教訓とし、生徒が避難など災害時にリーダー役を担えるよう、地域や大学と連携。環境問題や持続可能な社会づくりにも取り組む。19年からは、小中学校への出前授業を続けている。子供からは、楽しみながら災害時の安全確保について考えてもらおうと、避難計画「マイ・タイムライン」を作成できるカードゲームも開発した。松野京介さん(2年)は「愛媛県は、穏やかな瀬戸内海に囲まれているため避難率が低い傾向にある。『家にいた方が安全』と考える人もいますが、意識を変えてもらうため取り組んでいる。後輩たちにも継承してほしい」と話している。

【熊原愛実】

ジュニア防災リーダークラブ 行動の想定 事前に

優秀賞

ジュニア防災リーダークラブは、松山市の中学生が中心になって防災意識の向上を呼びかけるグループだ。被災後、時間の経過と共にどのような行動を取るべきかを事前に決めておく「マイ・タイムライン」の普及を図っている。普及活動がきっかけとなり、市内の全戸に防災マップとともにマイ・タイムラインの作成シートが配布された。犠牲者を減らすために早期避難を促す「松山逃げ遅れゼロプロジェクト」として、全市立中で事前に避難行動計画を作成する授業が導入されている。市立桑原中学校1年でクランに参加している山本愛莉さん(12)もタイムラインを作った。「災害の警戒レベルに合わせて家族の役割を決めることで、取るべき行動の具体的なイメージがわいた。地域でも取り組みが広がるように活動を続けたい」と話している。

【田嶋広景】

徳島県阿南市立橋小学校 先人の経験 知識に

優秀賞

徳島県阿南市は、橋海に面し、昭和南海地震やチリ地震津波で被害を受けた。高台に位置し災害時には避難所となる市立橋小学校では児童が主体的に防災活動と取り組み、自主性を育んでいる。子どもたちは、地震や津波の被災経験者である地域の高齢者の話を聞き、災害時に何が起きるか、どうすれば良いかを学ぶ。さらに、復興への努力の過程を知ること、地域に対する愛着を深めることにつながっているという。学校が避難所となるため、児童は「親たちが仕事でいない日中に災害が起きたら、自分たちが避難所を運営し高齢者を助ける」との意識で訓練などに臨んでいる。指導する山本崇教先生は「防災教育を通じて児童は自主性と自信が付き、訓練などで保護者と地域のつながりも生まれてきた」と手応えを感じている。

【熊原愛実】

埼玉県立日高特別支援学校 ICTで理解深め

優秀賞

埼玉県立日高特別支援学校は、体が不自由で基礎疾患を抱える児童・生徒が、それぞれの発達の違いに合わせて防災を学べるように情報通信技術(ICT)を活用している。QRコードをタブレット型端末で読み込み、防災関連の課題に挑戦する「かわせみ防災クエスト」は、2022年度の「ぼうさい大賞」に輝いた。紙の地図というアナログ要素を取り入れ、学びを深める形に発展させている。22年度の文化祭では、児童生徒が「大切なもの・守りたいもの」を写真や絵に表し、時計に仕立てた。防災教育担当の斎藤明子先生は「防災教育では命を守ることを教えるので、命に向き合うためには、自分の大切なものを知る必要があると考えた。災害が怖いのは大切なものを失うから。楽しく学びつつ『大切なものを守る』力を身につけてほしい」と話す。

【吉沼舞】

応募校・団体のご紹介

たくさんのご応募、ありがとうございます！
来年度の再チャレンジ、お待ちしております。

北海道	月形町立月形小学校	大阪府	東大阪市立花園中学校
北海道	札幌市立平岸西小学校	大阪府	関西学院千里国際高等部 探求隊
北海道	北海道上磯高等学校	大阪府	関西学院千里国際高等部
北海道	北海道別海高等学校 別海防災School	大阪府	大阪府立茨木西高等学校
岩手県	釜石市立釜石中学校	大阪府	大阪府立長尾高等学校 生徒会
宮城県	塩竈市立第二中学校	大阪府	大阪府立高石高等学校
宮城県	大河原町立大河原中学校	兵庫県	朝来市立竹田小学校
宮城県	大崎市立古川西中学校	兵庫県	西宮市立学文中学校
宮城県	宮城県多賀城高等学校	兵庫県	稲美町立稲美中学校
宮城県	宮城県気仙沼高等学校 2年4組「課題研究」防災チーム	兵庫県	小野市立旭丘中学校
宮城県	教室と授業	兵庫県	甲南高等学校 ボランティア委員会
秋田県	美郷町立仙南小学校	兵庫県	兵庫県立兵庫工業高等学校 総合理化学科 3年生生物化学班
福島県	喜多方市立第一中学校	兵庫県	兵庫県立豊岡総合高等学校
福島県	いわき市立豊間中学校	兵庫県	兵庫県立豊岡総合高等学校 環境建設工学科①
福島県	防災と環境を考える会	兵庫県	兵庫県立豊岡総合高等学校 環境建設工学科②
埼玉県	熊谷市立富士見中学校	兵庫県	神戸学院大学現代社会学部 社会防災学科 安富ゼミナール
千葉県	匝瑳市立吉田小学校	兵庫県	関西国際大学 KUISs BOSAI
東京都	青山学院大学 古橋研究室「チームUNVT」	和歌山県	和歌山市立有功中学校
東京都	NPO法人きっかけ食堂 食堂事業部兼組織開発部部长	和歌山県	和歌山県立海南高等学校 硬式野球部
神奈川県	(公財)藤沢市みらい創造財団 辻堂青少年会館	和歌山県	和歌山県立田辺工業高等学校 課題研究高井班
長野県	長野県松本県ヶ丘高校	和歌山県	和歌山県立和歌山盲学校
静岡県	磐田市立向笠小学校	広島県	広島大学学生独自プロジェクト ぼうさいチーム
静岡県	富士市立広見小学校	山口県	山口県立田布施農工高等学校
静岡県	静岡サレジオ高等学校	徳島県	徳島県立城南高等学校
愛知県	愛工大名電高校	徳島県	徳島県立阿南光高等学校
愛知県	愛知県立西春高等学校	徳島県	徳島県立みなと高等学園
愛知県	中部大学	香川県	高松市立古高松南小学校
愛知県	石浜中自主防災会	高知県	太平洋学園高等学校
愛知県	石浜中自治会	高知県	高知県立室戸高等学校
滋賀県	湖南市立甲西北中学校	高知県	高知県立日高特別支援学校
京都府	京都府立東稜高等学校	高知県	黒潮町大方児童館
京都府	京都市立塔南高等学校	福岡県	福岡市立東光中学校
大阪府	大阪府立水都国際中学校防災部	熊本県	熊本県立芦北支援学校

令和4年度事業概要

1	応募開始 令和4年6月16日	委員長	河田 恵昭	(公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構 人と防災未来センター長
2	応募締切 令和4年9月30日	副委員長	遠藤 英二	兵庫県防災監 兼 危機管理部長
3	選考委員会 令和4年11月16日	副委員長	鯨岡 秀紀	(株)毎日新聞社大阪本社編集局長
4	記者発表 令和4年12月8日	委員	安里賀奈子	文部科学省総合教育政策局男女共同参画共生社会学習・安全課 課長
5	表彰式・発表会 令和5年1月8日	委員	石井布紀子	特定非営利活動法人さくらネット 代表理事
		委員	鈴木あかね	兵庫県立舞子高等学校 環境防災科 科長
		委員	納谷 淑恵	特定非営利活動法人グローバルプロジェクト推進機構副理事長
		委員	平田 直	東京大学 名誉教授／一般社団法人 防災教育普及協会 会長
		委員	村上 威夫	内閣府政策統括官(防災担当)付 参事官(普及啓発・連携担当)
		委員	渡邉 征爾	独立行政法人都市再生機構西日本支社災害対応支援室長